

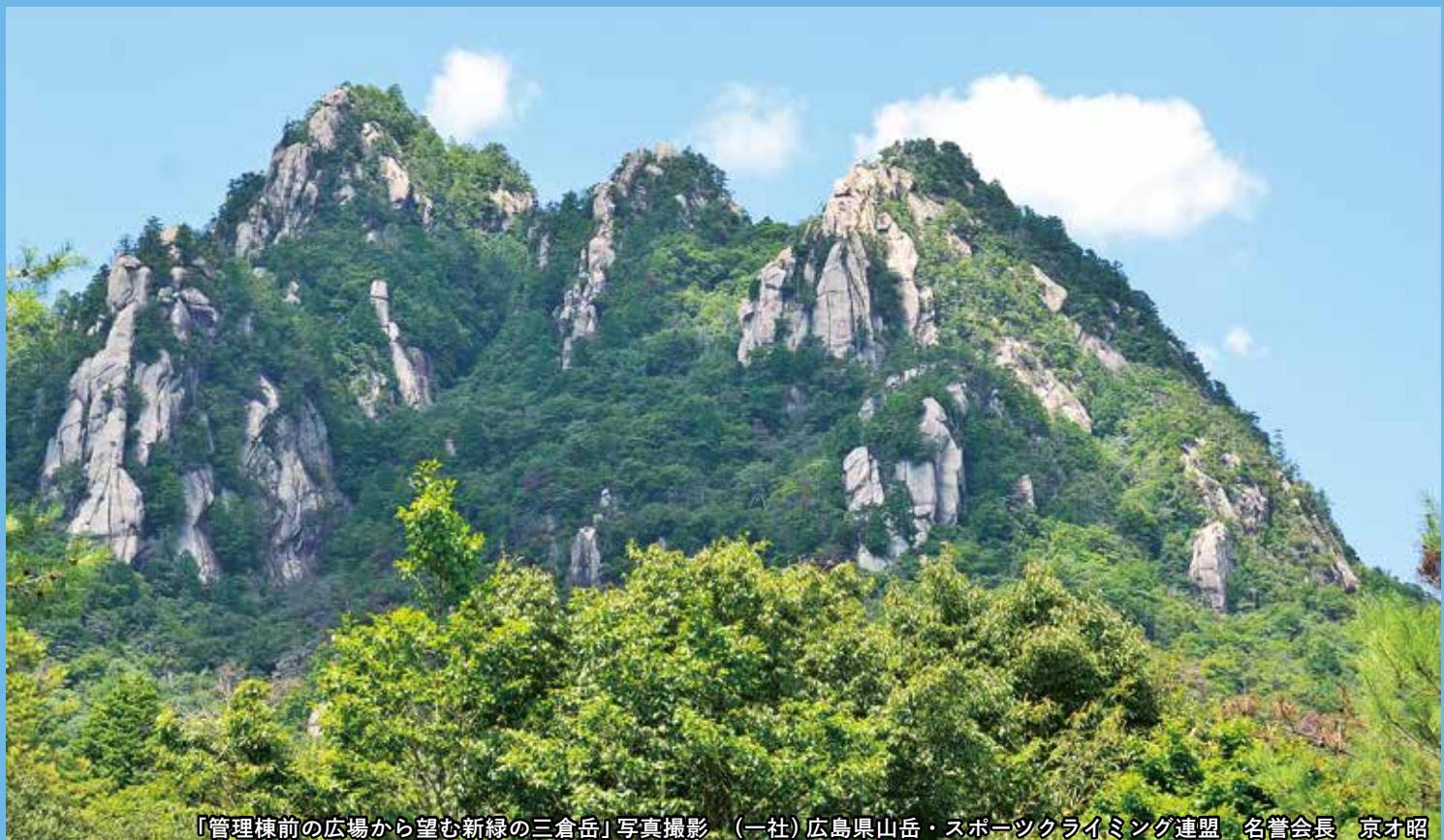


山とスポーツクライミング情報誌

登山 月報

JMSCA

登山月報 第682号 令和8年1月15日発行



「管理棟前の広場から望む新緑の三倉岳」写真撮影 (一社)広島県山岳・スポーツクライミング連盟 名誉会長 京才昭



新春号 No.682

新年を迎えて 会長 町田 幸男	2
第61回全日本登山大会兵庫大会 報告	3
第16回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会 開催報告	5
スポーツクライミング競技会ビレイヤー研修会 実施報告	7
【SKIMO】日本Skimoチームアメリカ遠征報告	8
青森県山岳連盟自然保護委員会のSDGsの活動について	10
Enjoy Climbing	11
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば	12

新年を迎えて



会長 町田 幸男

新年あけましておめでとうございます。旧年中は関係者の皆様には大変お世話になりました。

7月より会長を拝命し新体制となり、この半年間に注力したこと、今後の課題について述べさせていただきます。

【組織改革】

真っ先に取り組んだのは組織の見直しです。長年の懸案であった組織管理運営規程を刷新し、委員会のスリム化と役割分担の見える化を図りました。いくつかの委員会を部会として統合。新たな専門部としてマーケティング部を設立。独立委員会と総務部を統合し総務企画部を設立。その結果、委員会の数を28から23に縮小しました。組織図の詳細はJMSCAホームページの「情報公開」をご覧ください。

今までマーケティングはスポーツクライミング(SC)に特化した活動を行ってきましたが、専門部として独立させることで登山およびSKIMOを含めたJMSCA全体会員組織を俯瞰した活動に取り組むよう変更しました。マーケティング委員会では収益の改善としてスポンサー獲得にも積極的に取り組み、いくつかの企業と現在交渉を続けており今後実績に繋げてまいります。コーポレートコミュニケーション委員会ではSNSでの活動発信を積極的に行いJMSCAの知名度アップに貢献しております。今年は登山、SKIMOについても発信を強化し、更なる知名度アップに繋げてまいります。

総務部所属であった共済委員会はマーケティングの一環と位置付けました。共済会の委託金は唯一JMSCA独自の資金元であります。共済会加入者は年々減少しており早急に改善が必要です。加盟団体だけでなく一般登山者への普及が喫緊の課題であり、以前の加入者数である5万人を目標に取り組んでまいります。昨年11月より登山部とのコラボレーションで安全登山に関するWeb講習会を開始し、一般登山者への啓発にも取り組み始めました。

【DXへの取り組み】

企業では既に行われているデジタル化DX(デジタルトランスフォーメーション)についても取り組みました。理事会や委員会の資料および議事録、事務局関連の重要書類などを集約し、情報の共有を図りました。DXは情報の一元管理はもとより会議の効率化、ファイルやコピー用紙の削減、事務局の工数低減、経費削減などSDGsな活動とも言えます。

また3年前より取り組んできました「JMSCAフレンド」についてはマーケティング委員会で担当し、内容を精査して問題点と費用対効果を明確にしました。

現在はJMSCA独自の資格管理を中心に整理を進めています。特に共済会会員証のデジタル化では大きな費用改善が見込まれます。

【今年の取り組み】

2021年3月に中・長期計画を発表してから5年が過ぎました。振り返りますとその内容は殆どの方に知られていないように思います。

私たちは理念として「登山とスポーツクライミングの力で社会を元気にする社会貢献(人づくり・地域づくり・国づくり)を目指す」ことを掲げてきました。振り返りとして、できた事とできなかった事、出来なかった理由を明確にし、新たなVISION・MISSION・VALUESを次の5年間に向けて策定しなければなりません。これは組織としての使命でもあります。

減遭難「ストップ・ザ1000」を目指した安全登山の啓発。SC、SKIMOの普及と更なる発展によるオリンピックでのメダル獲得。何よりも確実な黒字経営を定着させるための健全な組織運営を目指さなければなりません。支出を抑えるための固定費の削減や各委員会での活動見直しと収入元確保による収益の改善は喫緊の課題です。各委員会がそれぞれの利点を生かし協力し合いながら力を結集できるよう横ぐしが通った組織運営を実現いたします。

【おわりに】

JMSCAの名前はまだまだ知られていません。今まで以上に外部への活動を心掛け、誰もが知る、頼れるJMSCAにしてまいります。登山やSC、SKIMOで困った事があったらJMSCAに聞けばいいじゃないか! そういうわれる組織に早くになりたいものです。

未筆では御座いますが、いつもご支援いただいているスポンサーの皆様はじめ都道府県山岳連盟・協会の皆様、関係者の皆様、今年も変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。皆様が今年1年安寧で有りますようお祈り申し上げます。

第61回全日本登山大会兵庫大会 報告



第61回全日本登山大会兵庫大会が兵庫県山岳連盟主管で兵庫県神戸市の背山、六甲山地(再度山・摩耶山・六甲山)で開催されました。

令和7年10月25日(土)から27日(月)の日程で開催し、天候の心配をしながらの大会でしたが、予定していたスケジュールを事故なく無事に大会を終えることが出来ました。

【会場】神戸市立自然の家

【後援】環境省・スポーツ庁・兵庫県・神戸市・公益財団法人兵庫県スポーツ協会・公益財団法人神戸市スポーツ協会・一般財団法人神戸観光局

【協賛行事】スタンプラリー

【登山報告】小雨、濃霧の状況ですが、天候回復の予報でもあり予定通りの登山活動としました。

【Aコース】再度山～摩耶山

7時にバスで新神戸駅へ移動し、計画時刻通り登山開始する。参加者は17名とサポート役員7名。登山開始後わずか10分余りで雄滝を抱えた幽谷美に感嘆の声



が上がりました。

貯水池近くで小雨に合うも皆さん装備は万全、市ヶ原を超えて毎日登山発祥地の碑の前で記念撮影をしました。

空海ゆかりの大龍寺を経由し、協賛の森の文化祭会場である再度公園へ到着し、午前の部を終了しました。

昼食や文化祭見学を楽しんで頂いた後、午後のコースへと進む。稻妻坂、天狗道を経由し、掬星台までの縦走コースを踏破。要望のあった三角点も見学頂き、宿泊地へ無事ゴールしました。何はともあれ、110年の時を経て今尚継承継続されている毎日登山という神戸独特の市民文化と、意外と厳しい縦走コースに驚きと関心を持たれた様でした。

【Bコース】ロックガーデン～六甲山

参加者46名とスタッフ12名は午前7時50分に阪急芦屋川駅北側の山芦屋公園を出発。高座の滝からロックガーデンを登り、七曲りを経て六甲山最高峰に全員登頂。その後ガーデンテラス、六甲ゴルフクラブを通じてゴールの六甲記念碑台に15時30分全員そろって到着しました。

雨が降ったり止んだりする悪天にも拘わらず笑顔で六甲山を楽しんでいただきました。





【Cコース】フリークライミング

あいにく雨天のため25日夕刻に堡壘岩は中止とし、鳥帽子岩のみに変更しました。

26日は8時30分に雨の中、予報では午後からの曇りに期待して鳥帽子岩に向かいました。

岩場到着後、鳥帽子岩から駒形岩まで各ルートの説明と注意点などを話して雨が上がるのを待つが、なかなか上がらず昼食後によくやく上がり始めて、岩が乾きました。

今しかないと、1ルートにトップロープを張りもう1ルートにはトライしてもらって、全員が登り終わるころには再び降り出したのでこれにて終了とした。

【Dコース】六甲山上散策

ガーデンテラスから神戸、大阪方面の素晴らしい景色を見ていたかったのですが濃霧で全く見えず。

六甲全山縦走路を逆走し、みよし観音、六甲山ゴルフ場、六甲山小学校を経由し、六甲記念碑台へ。昼食、ビジターセンター見学をしていただくが、ここでも濃霧で何も見えず。時間余裕もあり摩耶天上寺参拝、徒步で穂高湖経由宿泊地に帰りました。

【夜景ツアー】

港町神戸の有名な1000万ドルの夜景を楽しんで頂くために開催しましたが、日中からの雨で不安が一杯でした。でも参加者の皆様やスタッフの日頃の山での精進を山の神が見ていたのか、夜半から天候が回復してきたので実行と決めました。お酒が入った後の夜景ツアーでもあったので、宿舎(自然の家)から最寄りの場



所までピストンバス移動とすることとしました。

参加申込者63名を3回に分けてバスに乗車頂き、最寄りの場所から約10分歩いて頂き摩耶山掬星台から夜景を楽しみました。南東方向の夜景が素晴らしく参加者の皆さんから歓声があがっていたので、スタッフとしても開催してヨカッターと思ったしだいです。

【高校生逆走プラン】

初めて高校生が参加し、A・Bコースを徒步で逆走、途中で下から登ってくる参加者の皆さんと交差、交歓出来ました。

【スタンプラリー】<市民参加イベント>

再度公園、摩耶山掬星台、神戸登山研修所で実施しました。

【最後に】

本大会は開催決定から1年という短期間での準備でしたが、小雨、濃霧といった中、何とか予定していた催しを終えることが出来ました。

歓迎行事、交歓会では全国からの山仲間との交流、親睦を深めることができました。

また、初めて高校生が参加した大会でもあり、市民参加型のスタンプラリーも行い、有意義な大会であったと自負しております。

次回大会(大阪)が盛会となるよう祈念し、兵庫大会の報告とさせていただきます。

参加者の皆様、大会関係者の皆様、ありがとうございました。

(兵庫県山岳連盟 副会長 伊藤一雄)





■開催概要

第16回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会 (HSC2025)

主催 (公社)日本山岳・スポーツクライミング協会
共催 (公財)全国高等学校体育連盟
主管 (一社)埼玉県山岳・スポーツクライミング協会、
(公財)全国高等学校体育連盟登山専門部
協力 加須市山岳連盟
会場 加須市民体育館(埼玉県加須市)
期日 予選 2025年12月20日(土)
準決勝・決勝 2025年12月21日(日)
種目 リード
出場選手 43都道府県 男子113名 女子94名
来場者数 12月20日 446名 12月21日 309名

16回目を迎える本大会は、2008年の第1回大会以来、埼玉県加須市を会場として継続開催されている。今大会も、全国43都道府県の予選を勝ち抜いた男女各100名を超える選手が出場し、全国各地から高校生クライマーが集った。

本大会は、予選・準決勝・決勝の3ラウンドすべてを



開会式にて挨拶する角田守良加須市長



会場の様子

実施するリード競技大会として行われた。準決勝には男女それぞれ24名、決勝には8名が進出し、決勝進出選手は2日間で3ラウンドを戦う競技構成となった。

男女ともに、予選から決勝にかけて高いレベルでの争いが展開された。男子競技では、昨年度優勝の濱田琉誠選手(神奈川県)が準決勝で唯一の完登を果たし、首位で決勝へ進出。決勝においても安定した登りを見せ、2連覇を達成した。一方、女子競技では、前年優勝の小田



男子(個人)入賞選手



女子(個人)入賞選手



男子(団体)入賞選手



女子(団体)入賞選手

菜摘選手(大阪府)と村杉汐里選手(千葉県)が準決勝でともに完登し、同率1位で決勝に進出。決勝では両選手が同高度まで到達し、村杉選手は同ホールドのユーズが評価され40+、小田選手は40の成績となった。

大会運営は、JMSCA、全国高等学校体育連盟登山専門部、埼玉県山岳・スポーツクライミング協会、加須市山岳連盟による複合チーム体制で行われた。開催地である加須市の支援のもと、大会初日の開会式には角田守良・加須市長をお招きし、選手たちに向けて激励の言葉をいただいた。

■成績(個人)

男子

順位	氏名	所属	成績(決勝)
1位	濱田 琢誠	神奈川県・県立鎌倉高等学校(2年生)	39+
2位	笹原 蓉翠	東京都・都立篠崎高等学校(2年生)	37+
3位	西尾 洋音	大阪府・大商学園高等学校(3年生)	37+
4位	戸田 稔大	栃木県・県立宇都宮北高等学校(2年生)	34+
5位	内藤 雅琥	神奈川県・県立橋本高等学校(1年生)	24+
6位	船木 陽	栃木県・県立矢板東高等学校(3年生)	24
7位	志水 彰	千葉県・敬愛学園高等学校(2年生)	20
8位	神原 藍琉	東京都・専修大学附属高等学校(3年生)	19+

女子

順位	氏名	所属	成績(決勝)
1位	村杉 汐里	千葉県・県立幕張総合高等学校(2年生)	40+
2位	小田 菜摘	大阪府・府立東百舌鳥高等学校(3年生)	40
3位	横道 花凜	大阪府・常翔啓光学園高等学校(1年生)	38+
4位	狩野 凪	静岡県・浜松学芸高等学校(2年生)	35+
5位	麦島 心花	愛知県・中部大学春日丘高等学校(2年生)	35+
6位	齋藤紗里依	栃木県・作新学院高等学校(1年生)	34+
7位	徳嵩 悠乃	長野県・東京都市大学塩尻高等学校(2年生)	32+
8位	望月 萌叶	神奈川県・県立荏田高等学校(3年生)	23+

第16回を迎える今年の大会は、準決勝・決勝とともに極めて高い完成度で実施され、高校生クライマーの競技レベルの高さをあらためて強く印象づける大会となりました。準決勝、決勝のルートグレードは、女子が13b、男子が13c程度と推察され、全国大会にふさわしい難度設定であったと言えます。男女ともに上位選手の実力は拮抗しており、僅差で順位が決定する緊張感のある展開となりました。

ルート構成は、男女ともに持久力を要する中盤から上部にかけて、ホールドの距離が遠かったり、フットホールドが無かったり、また、あと一手を進めるかどうかが明暗を分ける核心ポイントが複数設定されており、最後まで集中力と判断力が試される内容でした。普段の練習ではあまり用いないムーブを選択して突破を図る場面や、細かな体の使い方を丁寧に積み重ねて高度を伸ばす場面も多く見られ、選手それぞれの技術力と競技理解の深さが随所に表れていました。大胆さと繊細さの両面が求められるルートであり、実力者が揃った大会にふさわしいだけでなく、見ている観客もワクワクと

本大会の開催にあたり、ご尽力を賜ったすべての関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。



表彰式・副賞を授与する 田中 文男 JMSCA 名誉会長

■成績(団体)

男子

順位	学校名	選手名
1位	栃木県・県立宇都宮北高等学校	戸田 稔大、石塚 悠紀
2位	三重県・近畿大学工業高等専門学校	小林 隼翔、柳瀬 春希
3位	山形県・東北文教大学山形城北高等学校	栗田 琢真、永山 翔翼
4位	岩手県・岩手高等学校	倉本 心温、本堂 介
5位	神奈川県・県立秦野曾屋高等学校	廣澤 煙大、佐竹 晴馬
6位	鳥取県・鳥取城北高等学校	藤田 楓、山脇 大和

女子

順位	学校名	選手名
1位	大阪府・常翔啓光学園高等学校	横道 花凜、森本 明
2位	千葉県・県立幕張総合高等学校	村杉 汐里、新谷 美唯
3位	長野県・長野県松本美須ヶ丘高等学校	山田 泉都、山田 威和
4位	東京都・明法高等学校	柿崎 純羽、柿崎 由羽
5位	佐賀県・県立多久高等学校	梶 純香、通谷 佐与
6位	奈良県・県立郡山高等学校	坂本 桜、坂本 楓

(大会委員長／JMSCA 競技委員長 百瀬恭平)

緊張感を味わうことができた課題構成であったと思います。

また、本大会は競技内容のみならず、運営面においても全国各地から集まつた多くの関係者の尽力によって支えられていました。競技役員、審判員、ルートセッターをはじめとする多くの方々の協力により、選手が安心して全力を発揮できる舞台が整えられたことに、深く感謝申し上げます。

最後に、本大会の開催にあたり多大なるご支援とご協力を賜りました、加須市、加須市山岳連盟、埼玉県、埼玉県山岳・スポーツクライミング協会、協賛企業、日本山岳・スポーツクライミング協会の皆さんに、心より厚く御礼申し上げます。全国から多くの関係者の皆さんにお力添えをいただき、本大会を安全かつ円滑に運営できましたことに深く感謝いたします。今後とも、高校生クライマーの挑戦と成長を支える大会として、継続的に開催できますよう、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(実行委員長／全国高等学校体育連盟登山専門部 鈴木和也)

スポーツクライミング競技会 ビレイヤー研修会 実施報告

2025年12月19日(金)から20日(土)にかけて、埼玉県加須市民体育館にて「スポーツクライミング競技会ビレイヤー研修会」が実施されました。本研修会は、競技会におけるビレイ技術の向上とビレイヤーの養成を目的としたものです。

参 加 者 感 想

「安全と成長を支える技術を求めて」

報告者：脇田 一輝（三重県私立学校教諭／三重県津市）

2025年12月19日(金)から20日(土)にかけて、埼玉県加須市民体育館にて開催された「スポーツクライミング競技会ビレイヤー研修会」に参加しました。研修2日目には、本協会主催の「第16回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会」において、実地研修が行われました。参加者は東北・関東・東海と広域から8名が集まり、そのうち2名は高校教員でした。

本研修会は、JMSCAが主催する競技会ビレイヤー養成のための専門研修であり、競技会特有の安全管理技術の習得および向上を目的としたものです。2日間の日程を通じて、初日の座学および実技確認から、2日目の大会スタッフとしての実践運用に至るまで、競技会ビレイヤーに求められる高度な判断力と技術について学ぶことができました。

私は現在、三重県で高校数学教員として勤務し、クライミング部の顧問を務めています。もともとクライミング競技の経験はなく、ルールも十分に理解していない状態でしたが、大会のリザルトサービスを担当することをきっかけに競技に関わるようになりました。その後、C級審判資格およびスポーツクライミングコーチ1を取得し、今回のビレイ講習会にも参加させていただきました。

座学講習では、確保理論やビレイデバイスによる操作の違いについて学びました。特に、カラビナとデバイスの相性などは大変参考になりました。ビレイは技術や実践面が重視されがちですが、「知らない」「理解できていない」ことは、実際の現場で安全に実行できるはずがありません。これは本職である教育の場においても日々感じていることです。中でも、「知っているつもり」になってしまふことは自分では気づきにくく、最も危険であると感じました。講師の佐原さんからの「デバイスの取扱説明書はきちんと読んでください」という言葉が、そのことを強く認識させるものでした。

実技講習では、まずロープ結束、デバイス操作、基



本姿勢、クロスチェックを行いました。これらはルーティーンとして、毎回正確かつ確実に実施することが重要であり、少しの油断が思わず事故につながることを学びました。すでに部活動でのリード練習でも実践している内容ではありますが、改めて部員たちにも共有し、徹底していきたいと感じました。

制動訓練では、他の受講者とクライマー役・ビレイヤー役に分かれ、3通りのビレイ方法で落下時の衝撃をクライマー役として体験しました。制動の有無によってクライマーにかかる衝撃が大きく変わることを身をもって体感し、制動の重要性を改めて認識しました。

研修の最後には、全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会において、競技ビレイの実地研修を行いました。選手のビレイを担当しながら随時アドバイスをいただけたことは、今回の講習会の中で最も有意義であったと感じています。予選は男女合わせて200名を超える規模であり、選手間のレベル差も大きく、さまざまな状況に応じた判断を経験することができました。一度に複数のクリップに対応するために素早いロープの繰り出しが必要な選手や、クリップがうまくできず動作を中断し、出したロープを引き込む必要がある選手など、対応は多岐にわたりました。中にはハーネスが正しく装着されていない選手も見受けられました。

自身の技術不足により、選手を壁に衝突させてしまう場面もありましたが、適切に制動をかけて下ろすことができた際には「ナイスビレイ！」と声をかけていただき、自身の成長を実感することもできました。

私と同様に、競技経験のない顧問の先生方も多くいらっしゃるのではないかと思います。現在、クライミングは小・中学生世代を中心に人気が高まり、大きな盛り上がりを見せている競技です。子どもたちの安全と成長のためにも、少しでも関心や課題を感じている方は、ぜひ次回のビレイヤー講習会を受講されることをお勧めします。

以上、貴重な学びの機会をいただき、ありがとうございました。

SKIMO

日本Skimoチームアメリカ遠征報告

12月8日 文責：JMSCA Skimo コーチ 松澤幸靖

オリンピック開催シーズンとなり、今季の所詮はオリンピック予選としての最終戦が12月6日・7日に行われるアメリカ、ユタ州ソリチュードにて開催された。

第1戦目のワールドカップをしっかりと戦えるよう、10月からヨーロッパでトレーニングを積んだ、島 徳太郎、田中 友理恵、白井 夏海と、日本から萩原悠己とコーチの松澤 幸靖が11月15日に出発し、アメリカで合流した。

11月16日：ソルトレイク国際空港にて日本から松澤、萩原2名とオーストリアから島、田中、滝澤、白井の3名とで合流し、Solitudeまでレンタカーにて移動。

17日：ワールドカップ初戦が開催されるSolitudeは例年よりもかなり雪が少なく、初日のトレーニングは隣の谷のAltaまで車で移動し、わずかな雪上でトレーニングを行った。登ることはできても、ほとんど滑ることはできないような条件であった。

18日：トレッキングコース約19キロを3時間かけてランニング。

19日：まだ雪のないSolitudeゲレンデにてストックランニングを行う。午後はペップコーチを迎えてソルトレイク国際空港を往復。

25日：上田選手がチームに合流する。26日のタイムトライアルに向けての説明及び下見を行った。

26日：9:30ミックスリレーに向けたタイムトライアル開始。

結果

男子 1位 島徳太郎 2位 萩原悠己

女子 1位 上田絢加 2位 田中友理恵



12月7日 SPRINT 男子の島



日本チームとPepコーチ

3位 白井夏海 4位 滝澤空良

以上の成績により、12月6日のミックスリレーは1組目、島徳太郎&上田絢加。2組目、萩原悠己&田中友理恵のペアが決定した。

30日：11月30日によくレース会場のSOLITUDEにも雪が降った。これにより、人工降雪とあわせて12月6日までには当初予定していた正面の斜面での開催が可能になると思われる。

12月3日：Solitudeで初めての朝トレーニングを6時半から行った。雪は降ったものの実際にはどこかのゲレンデでトレーニングできるというわけではなく、アメリカは基本的に登ることが禁止されている場所が多く、ゲレンデが始まる前なら登っても良いという許可を出していただいた為、トレーニングが出来ている。

以下はワールドカップ成績である。

特にミックスリレーでのA決勝進出は、日本チームとして2023-24シーズンのコルチナ大会以来となつた。

12月6日

ミックスリレー種目

島徳太郎／上田絢加組がA決勝進出し 11位



11月後半になって少しづつ雪上でトレーニングできるようになった



トランジットのトレーニング（スキーを履いた状態からスキーを担ぐ）



11月20日頃はまだ雪がなく、陸上トレーニング中心

タイム 35:14:90 (2024 コルチナ大会以来の A 決勝進出)

▪ 女子個人の1本目参考タイム

1位 De Silvestro Alba 8:30:10

13位 上田絢加 9:19:80

21位 田中友理恵 9:48:00

▪ 男子個人の1本目参考タイム

1位 キャメロン 7:12:90

16位 島徳太郎 8:10:20

28位 萩原悠己 10:07:00

以上の結果から

島徳太郎と上田絢加が A 決勝へ

A 決勝 1位 USA 32:17:60

A 決勝 10位 中国 34:23:40

A 決勝 11位 日本 35:14:90 (2024 コルチナ大会以来の A 決勝進出) であった。

12月7日

▪ スプリント種目

女子結果

上田絢加は準々決勝に進み全体の 22 位となった。

上田はグループでは 3:43:80 で 5 位、また、同グループの 1 位は Ravinel Margot 3:26:60 だった。

予選では、上田絢加 22 位。滝澤空良 35 位、臼井夏海 38 位、田中友理恵 40 位

滝澤空良は 1 走目 3:54:50

臼井夏海は 1 走目 3:59:80

田中友理恵は 1 走目 4:00:70

で、それぞれ 2 回目の準々決勝には進めなかった。

▪ スプリント種目

男子結果

日本チームの島徳太郎は、準々決勝まで進み全体の 20 位となった。

準々決勝のグループでは 4 位。タイムは 2:57:00 で、同グループの 1 位は Ferrer Martinez oz で、2:44:70 だった。

また萩原悠己は、1 走目 4:02:60 で 2 回目の準々決勝には進めなかった。

*

今回は 11 月 16 日からの合宿については US チームの Sarah コーチには現地の状況やホテル手配などに対し多くのアドバイスを頂いた、また Sarah コーチから紹介をしていただいた現地に住む包山さんからも現地での情報や食事について、多くの支援をいただき、チームとしてとても助けられた。

2024 年は現地であるソルトレイクの Solitude も SKIMO 種目ができるよう働きかけを行なっているということだが、今回繋がりを作れたことで、また今後に生かされたら良いと思う。

2026 年ミラノコルチナオリンピック予選としてはこの 12/6-7 開催された US ソルトレイクでのワールドカップが最終予選となり、日本チームとしては、ミックスリレーでの大陸杯と個人種目のいずれでもキップを取ることはできず、オリンピック参加の可能性は、ほぼなくなった。

しかしながら、ワールドカップでのシーズンは始まったばかりであり、男子の島と女子の上田は、昨シーズンよりも良いパフォーマンスを見せており、昨シーズンを上回る成績が期待できる。

まずはこのシーズンを、より高い目標を持って取り組みたい。

そしてまた、12 月後半に開催される国内合宿では次世代選手と共にトレーニングをし、シニアとジュニアの同時強化を図っていきたいと考えている。

青森県山岳連盟自然保護委員会のSDGsの活動について

昨年まで青森県高体連登山専門部の委員長ということもあり、ジュニア委員長として活動しておりましたが、委員長退任に伴い4月の定例総会で自然保護委員長として新たに活動することになりました。今年度、本県山岳連盟は6団体で構成されています。青森県内には、世界遺産の白神山地をはじめ、国立公園（十和田八幡平、三陸復興）、国定公園（下北半島、津軽）が広がっています。

活動内容としては、これらの公園内で、登山客への指導、情報収集と報告、事故の防止、高山植物や気候の特性など自然解説を主に行なっております。青森県観光政策課からの委託で、平成25年から北八甲田山域の登山道整備を行なっており、青森県山岳連盟は小岳コースと篠場コースの刈り払い作業を継続して行なっています。笹を刈り払い登山道の整備を行うことで、登山道の足元には高山植物が次々と芽吹いていきます。今年度は、悪天候やクマの目撃情報などがありましたが、3回の実施で延べ16名が参加いたしました。

八甲田山域の避難小屋は、老朽化しているため、仙人岱ヒュッテの建て替えを青森県が計画しておりますが、なかなか進展が見られません。また、大岳ヒュッテにおいてはオーバーユースやトイレの悪臭問題などがあります。さらに以前に埋設したゴミが土砂の流失により地表に出てきており、その都度対応しております。近年の中高年の登山客の増加に伴って、こうした登山道や山小屋の整備は必要不可欠であると考えています。

登山道や環境整備の他に、青森県高体連登山専門部と協力し、専門部の行事に参加して、これから時代を担う高校生に対して、講習・研修会の実施、登山マナーの指導や清掃活動も定期的に行なっています。本県山岳連盟には、高校で高体連登山専門部に在籍した卒業生も多くおり、本県山岳連盟のメンバーとして大会だけでなく連盟の行事にも積極的に参加し、普及活動などに熱心に取り組んでおります。

SDGsな登山とは、「つくる責任 つかう責任」（ゴミ削減、環境配慮型製品利用）や「陸の豊かさも守ろう」（森林保全、登山道整備）に貢献する、環境と調和した持続可能な登山のことです。具体的には、ゴミを持ち帰る、エコなギアを選ぶ、地域の自然保護活動に参加する、そして山歩きを通じて心身の健康を保ち、自然の恵みに感謝し、その保全を次世代に繋ぐ意識を持つ行動を指すとあります。

しかしながら、八甲田山では、2024年6月に80代女性がクマに襲われ死亡する重大事故が発生し、同年6月28日から周辺の登山道やキャンプ場に長期の立ち入り規制が敷かれました。事故後、クマ捕獲のためのわな設置やパトロールが行われ、安全確保のため規制が段階的に解除されましたが、依然としてクマの出没とその対策が課題となっています。青森県高体連登山専門部では、昨年に引き続き10月25日～26日にかけて、大会コースである酸ヶ湯～大岳のコースで熊の被害状況の確認のための八甲田山域安全調査会を実施しました。調査会には4名が参加し、コース上の安全と熊の痕跡の確認を行いました。

少子高齢化、2017年の那須雪崩事故、2020年度には、新型コロナウイルス感染症の影響によるインターハイの中止など、登山大会を取り巻く環境は年々厳しくなっています。1963（昭和38）年に「全国高等学校総合体育大会」と名称が定まってから、中止となったのは57年の歴史上初めてでした。登山大会を開催する環境は年々厳しくなり、我々のSDGsな登山活動への対応も多岐にわたってきております。

歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリ氏は「世界が大きく動くときに必要なことはグローバルな視点での協力と連携」と述べています。今、我々を取り巻く環境が大きく変わろうとしている中で必要なことは「団結し、重荷を背負う覚悟」だと思います。青森県山岳連盟は、現状に甘んじることなく、協力と連携を強化し、変化を恐れず活動していきたいと思います。

青森県山岳連盟 自然保護委員長 樋口寿昭



県高校春季大会(2025.4.20)



県強化合宿 登山知識講習会(2025.6.6)



八甲田山登山道整備(2025.8.9)



県強化合宿 読図・観察記録講習(2025.6.7)

Enjoy Climbing!

バインター・ブラックIV峰敗退記 連載①

王鞍彗介

8月12日

ムッとした空気の漂うイスラマバード空港で花束を持ったSadiqが待っていた。Sadiqとは出国前から色々とメッセージのやり取りをしていたのだが、実際に会った彼は白いシャルワール・カミーズと同色の白髪と髭を生やしていて、想像していたよりずっと優しく紳士的な印象を受けた。空港からチョゴリサトレックが確保した宿へ向かう道中、おすすめのレストランへ連れて行ってもらい、注文もおまかせで美味しいケバブにチャパティ、ビリヤニをいただく。Sadiqはニッパトラベルで長年働いていた経験で流暢な日本語を話し、物事がスムーズに進む。しかし言葉の通じぬ異国へ向かうときのあの緊張感、避けられぬいざこざへの如何とも言いがたい期待は幻のように消え去ってしまった。至れり尽くせりの応対が慌ただしく過ぎ去った一日を、ホテルのベッドの上で複雑な想いで回想した。

国内線でスカルドゥへ飛ぶと、Sadiqの兄弟Aliとその息子Nisarが迎えてくれた。今回ガイドを務めるNisarは日本語を喋れず、英語での会話になることに少しホッとした。今日8/14はパキスタンの独立記念日で、あちこちに国旗がはためいている。日本でこの光景に出くわしたらかなり異様に映るはずだが、それはむしろ日本という国の大異性だろう。

翌朝目覚めると、なにやら街中に歌とも演説ともつかぬ放送がスピーカーから大音量で流れている。聞けば、今はひと月の間争いが禁止される「Muharram」というイスラム暦における四つの聖なる月のひとつで、今日がその最終日だという。スカルドゥの中心街にあるモスクの前では黒い衣装を着た男たちが群がり、激しく胸を叩きながら叫んでいる。ものすごい迫力と熱気で近寄ることができない。Aliは少し距離を置いたところから遠目に眺めている。どうやら踊っているのはシーア派で、Aliは逊ニ派だそうだ。なぜシーア派と逊ニ派が争うのか率直に聞いてみると、彼の答えは簡潔だった。例えば今日はシーア派の儀式のために多くの道路が塞がれているが、もし今家族や大切な人が怪我や病気になり、このために病院にいけないとなったらあなたはどう思うか？ 実にシンプルで切実だ。

この先スカルドゥからアスコーレへは陸路となり、ジープに激しく揺られる。バルトロとビアフォ氷河の入り口となるアスコーレは、どこか大儀そうに飛ぶカササギたちが住まう美しい村だ。色彩を欠いたこの土地の



登攀ライン ©高柳傑

人々は、日本よりもはるかに豊かな印象を受ける。それは会話好きな彼らの笑顔と整ったムスリム衣装のためか、それとも山へ向かう自分の心が彩られているからか。男たちはみな思わず絵に描きたくなるような顔をしている。はっきりとした目鼻立ちに立派な髭、宿命的な太陽に焼かれた肌に憚ることなく刻まれたシワが妖しい影を作る。肌も服装も食べ物も、この地の土や岩の色をあえて模倣しているかのようだ。あるいは自然が彼らを模しているのだろうか。長いこと揺られ続けておぼろげになった瞳で窓の外を眺めると、岩という岩の影に人がうずくまり、深くえぐれた谷間には溢れんばかりのチャイが滔々と流れている。そして足元を見れば、日中のみ現れる星々たる雲母が一面に煌めいている。

いよいよキャラバンが始まり、ビアフォ氷河に降り立った次の日、急に胃腸の調子が悪くなりまともに歩けなくなってしまった。なんとかベースキャンプにたどり着いたが、一週間以上経っても改善は見られない。調子がいい日には元気に動き出せるのだが、数時間経つと急にガタがくるように身体が使い物にならなくなってしまう。高柳さんは数年前のバルトロ氷河で仲間が似たような症状に苦しんだ経験があり、それは結局アタックまで治らなかつたというので重たい空気がベースキャンプを包んだ。ついには薬に手を出し、ホスミシンという抗生物質を三日間服用すると、ものの見事に回復した。現代医療さまざまである。これで完全「フリー」での登攀は無くなったと、半ば冗談、半ば本気で話したが、何はともあれスタートラインに立つことができた喜びは変わらない。

見渡す限り針のように尖った峰々に囲まれたビアフォ氷河では歩いて登れるような山はほとんどない。今回は2018年に同じくバインター・ブラックIV峰にトライしたスイス隊が、敗退後に登ったSiyah Kangri Hoh Brakkという6000m弱の山で順応した。何度かセラックの下を通過せざるを得ず、緊張感のある順応登山となった。

あとは数日間の好天予報を待つのみ。草花が一面に茂る美しい丘に登ってお目当ての壁を眺める。視線の先にあるのはバインター・ブラックIV峰(6660m)。隣には通称オーガ(人喰い鬼)と呼ばれるI峰(7270m)が聳えている。下流側にII峰、III峰と続き、さらにラトックの峰々が並んでいる。これらを「山」と呼ぶにはどこか畏れ多い。圧倒的な岩が、質量が、懸垂氷河を身にまとい、ゆったりと流れ



バインター・ブラックIV峰 (左) とI峰 (右)

る雲の淡いペール越しにこちらを見下ろしている。

オーガは1977年、ダグ・スコットとクリス・ボニントンによって初登され、その下降時にダグが両足を折って吹雪の中を匍匐前進で下山したエピソードはあまりにも有名だ。第二登は2001年、トーマス・フーバーらによる南ピラーからの登頂。一見して登れるイメージの湧かないようなどんでもない強点を辿っている。そして2012年にはヘイデン・ケネディとカイル・デンプスターが、K7を新ルートから登ったその足で、未踏のオーガ南東壁から南壁へと抜けて登りきっている。

そんな逸話に事欠かない人喰い鬼の脇に控えめに佇

んでいるのが、West I峰とも呼ばれるIV峰。南側のウズン・ブラック氷河から見上げるI峰とIV峰はしかし、サイズの差こそあれ、興味深い対比を成している。なめらかすぎて人を拒むようなオーガと、様々な可能性を窺わせて誘い込むようなIV峰。IV峰でとりわけ目を惹くのは、やはり中央上部、巨大な筒状の岩の塊だ。赤褐色をした周囲の花崗岩から浮き出るようなグレーを装い、表面は異様なほどつるりとしている。みんなでミサイルや原子爆弾みたいだと話していたが、僕はひそかに巨神兵と呼んでいた。太古の昔には動いていたかのような、そしてやがて再び動き出すのではないかと思わせる古代兵器。ながいながい眠りについた硬い意志。山頂直下に封印されたその巨神兵から、両手を広げるようにしてオレンジ色の花崗岩の壁が斜め下に伸び、その腕が伸びきったところで今度はその手を合わせていくように幅を縮め、「ノド」のようなルンゼを形成している。菱形に展開されたこの岩と雪のコラージュが、巨神兵によって統制されているようだ。その姿はオーガI峰に勝るとも劣らぬ美しさで我々を誘ってくる。

JMSCA

令和7年度 第10回 ハイブリッド開催定時理事会報告

日 時：令和7年12月11日（木）

13時～16時50分

場 所：JSOSビル3F会議室5及びZoom

出席者：

【理事】町田幸男、廣川健太郎、畠中渉、望月啓治、赤尾浩一、小田部拓、石井昭彦、吉田春彦、中橋沙羅、星一男（第4号議案より参加、3時以降退出）、石田英行、（欠席）武田豊明、原 勇人、下村真一（第4号議案より参加）、蛭田伸一、野村 善弥（16:30から参加）、古賀英年、前田善彦、安井博志、小高令子、（欠席）栗田季慎子、中島隆之、平田伸也（16:40から参加）、奥井健吾、藤江理枝、西原斗司男（15:00から参加）

理事出席者24名・欠席者2名

【監事】古屋寿隆、佐久間務

監事出席者2名

1. 開 会

2. 会長挨拶

本日は、議案に関連し今後のJMSCAの在り方や、来年度からの中長期計画について意見交換したい。尚、常務理事会や理事会に出される資料の中身が間違っているものが散見される。委員会の委員長だけでなく、担当理事も中身をチェックしてほしい。ガバナンスを効かせるようにしてほしい。

3. 会議成立状況報告

理事数26名中21名出席

監事数 2名中2名出席

（定款第33条、定足数=14名（過半数以上））

4. 議長選出

会長が議長をつとめる（定款第32条）

5. 議事録署名人

会長及び監事（定款第34条）

6. 議 題

議案第1号 前回理事会議事録の承認について

すでに、内容の確認は完了しており以下のとおり承認された。

棄権0名 反対0名 賛成21名

議案第2号 スポーツクライミング公認大会の承認について

藤江理事が、公認競技会申請が提出されている「全国中学生リード大会2026」について配布資料を基に説明した。内容的には、了承できるが、申請書、收支予算書上の数値（人数、収入金額等）に間違いがあるので、数値を再確認し、再提出することを条件に異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成21名

議案第3号 課題解決型アスリート育成パウェイ構築支援事業に係るJSCの照会への対応について

望月専務理事が、配布資料を基に経緯の説明をした。強化委員会が本年9月に実施した国内合宿事業の会場選定について、JSCから利益相反等の問題はないか照会があり、これに対応する文書についての審議。利益相反が認められないことは常務理事会でも審議済みであり、改めて理事会で審議したが、原案の内容でJSCに提出することで異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成21名

議案第4号 2026～2030年度中期計画の策定に係る将来を語る会について

望月専務理事が、配布資料を基に説明した。様々な意見が出されたが、次期計画の

理念やビジョンの策定にあたり理事、監事、正副委員長などにより、来年1月23日（金）19:00 からWEB形式で語る会を実施すること、またこれに関連して各専門部において理念やビジョンについて整理しておくこととなり、以下のように異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成21名

議案第5号 審判員等の待遇改善に関する要望について

奥井理事が、配布資料を基に説明した。審判員の謝金単価の引き上げ要望であるが、財源の確保等の問題があることから、まずはSC部内で協議・調整することとした。また、旅費については、新幹線の自由席を実情に合わせ、指定席での単価にしても良いのではとの意見が出された。

議案第6号 令和7年度第2次補正予算について

望月専務理事が、最新の委員会毎の收支状況を説明し、前年と比べ収入が減少しており、固定費や事業費の削減の必要性を説明した。審議の結果、更に最新事情を加味して補正予算を決議する必要があることが判明し、今回は報告までとした。

議案第7号 全国理事長会議の開催及び議題について

望月専務理事が、2月8日（日）に開催の同会議について、配布資料のような議事で開催することを提案し異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成22名

議案第8号 スポーツクライミング競技規則の一部改定について

奥井理事が、配布資料を基に変更点（IFのルール変更に合わせてテクニカルインシデントの影響を受けた選手について最小時

間一律2分を廃止し、インシデントや抗議の内容によって判断することにした)の説明をし、以下のように異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成22名

議案第9号 UIAAアイスクライミングワールドカップ参加選手について

廣川副会長が、従来、参加選手について常務理事会での承認や、理事会での報告はされてこなかったが、今後の常務理事会での機関決定を含むプロセスについて提案し、候補選手(女子7名、男子10名)について以下のように異議なく承認された。また、委員会や、UIAAとのかかわり方について廣川副会長が整理をすることになった。

棄権0名 反対0名 賛成22名

7. 報告

報告第1号 11月末時点の収支・キャッシュフローの状況について

赤尾事務局長が、現時点のキャッシュフロー及び、12月から3月までの資金確保対策を説明した。確実な資金確保のためには、委員会(特に、SC競技委員会、SC強化委員会、スキモ委員会)から詳細な収入、支出の見込数字を事務局に提供することになった。望月専務理事が、11月末の予算管理表、決算表の追加説明をした。以下、報告第2号から第8号まで、望月専務理事が報告した。

報告第2号 山岳主任検定員の認定について(A検定2名、B検定9名)

常務理事会で以下の対象者が承認された。

A検定2名

①経塚 雅子(新規・東京)
②長井 浩太郎(福井)

B検定9名

①松山 信(長野) ②佐々木 政雄(福島) ③鈴木 修(静岡) ④計良 寿彦(埼玉) ⑤小林 玲子(静岡) ⑥横倉 敦史(新規・栃木) ⑦浅岡 隼一(新規・東京) ⑧佐伯 先史(新規・香川) ⑨桂山 章(新規・兵庫)

報告第3号 公認夏山リーダーの資格認定について(大阪3名)

指導委員会の議事録では3名(①岩谷 多恵子 ②吉田 竜二 ③中西 久美子)が書かれているが、指導委員会の議事録上、2名が合格し承認されたとあり人数に差がある。内容を再確認して、正しい内容を再送(保管)することになった。

報告第4号 S Cコーチ1専門科目検定合格の認定について

常務理事会で、以下の対象者が承認された。

■主任検定員養成講習会

講習会修了者9名(新規4名、期限切れ1名、継続4名)が講習会を修了し認定された。

①尾形 和俊(新規・長崎) ②森本 穩(新規・神奈川) ③児玉 勉(新規・神

奈川) ④岸本 郁代(新規・神奈川)

⑤島田 邦昭(神奈川) ⑥目次 俊雄(千葉) ⑦山本 和幸(神奈川) ⑧鈴木 正之(神奈川) ⑨中島 陽子(東京)

以下の10名については、公認主任検定員認定規約第5条に基づき、継続認定された。

⑩菅野 富寿(福島) ⑪藤江 理枝(東京) ⑫篠崎 喜信(東京) ⑬佐藤 豊(埼玉) ⑭ 佐原 晴人(愛知) ⑮西村 良信(兵庫) ⑯方山 文生(兵庫)

⑰安藤 篤司(富山) ⑯ 広畠 裕士(茨城) ⑯ 有枝 樹雄(東京)

■神奈川県会場8名

①加藤 拓真 ②田村 雄輔 ③大西 麻理子 ④大西 莜雪 ⑤井口 純之 ⑥近藤 美七海 ⑦池谷 海斗 ⑧太田 侑生

■千葉県山岳・スポーツクライミング協会3名

①萩原 香月 ②小林 和音 ③高口 洋平

報告第5号 埼玉県教育委員会からの外部委員推薦依頼について

常務理事会が町田会長を選任したことを報告した。

報告第6号 JMSCA定例表彰及び日本山岳グランプリについて

常務理事会で定例表彰5名(土井祐之氏、木村康男氏、稻田春男氏、山田雅昭氏、山本和幸氏)、指導委員会から3名(土井祐之氏、木田光彦氏、西村良信氏、うち1名は定例表彰と同一)が推薦され承認された。

指導委員会からの推薦対象者2名(木田氏、西村氏)については、推薦調書を提出してもらうことになった。

報告第7号 BJCに係る海外セッター招聘の承認について

技術委員会からスペインからのセッターの就労ビザ発行の依頼がきている。費用に関しては、競技委員会で拠出し、来年日本人セッターがスペインの競技会に行くことについて予算化されており、問題ないので、常務理事会で承認された。

議案第8号 令和7年度上半期中間監査指摘事項への対応について

各部長から提出された内容を再構成し、監事あてに回答する文案について説明した。

報告第9号 国スボリード壁4ルート問題の報告について

原理事が、11月28日にJSPOと協議した結果を報告した。

報告第10号 UIAAに関する今後の活動方針について

石田理事が、配布資料を基に説明した。今期は、UIAA情報部会を立ち上げる。

また、自然保護、法律関係の専門委員が参加するように青山委員長が働きかけている。今期、一部委員が自らの費用負担でUIAAを訪問したが、今後は、来年度予算に反映することを確認した。

報告第11号 登山部・山岳共済会 安全登山講習会開催について

廣川副会長が、第3回目を12月23日(火)に実施予定。来年は、1月21日から23日の間の候補日から実施する予定で調整している。

8. その他

望月専務理事から以下の内容が伝達された。

一ミラノコルティナ冬季大会の結団式、壮行会への参加希望者は12月12日までに事務局に連絡すること。

一事務局の年末年始休業は

12月27日～1月4日までの予定。

各委員会議事録については、google ドライブに作成した各部のファルダ内に収納し、そこから適宜参照してください。

以上

令和7年12月11日

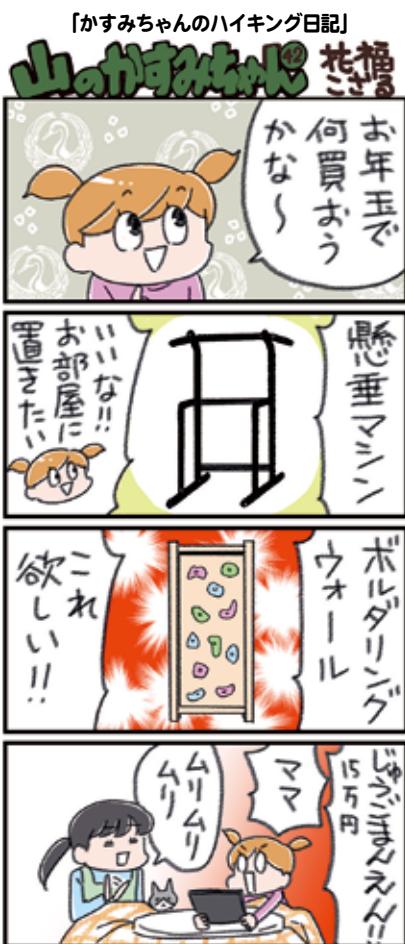
記録 赤尾浩一



超肌着力 想像をはるかに超える“保温力”

寄贈図書

(公社)日本山岳会	「山」2025年(令和7年)11月号(No.966)	会報	一等三角點研究會	「聳嶺」新世紀第十八号	会報
(株)日本運動具新聞社	「スポーツ産業新報」第2489号	新聞	(株)山と渓谷社	「山と渓谷」1 2026 January	情報誌
(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No. 572	会報	長野県山岳協会	「やまなみ」No.259	会報
兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第702号	会報	おいらく山岳会	「山行手帖」No. 793	会報
(株)ネイチャーエンターブライズ	「岳人」1月号 No.943	情報誌	(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」No.65	会報
(株)山と渓谷社	「ROCK & SNOW」No.109	情報誌			



表紙のことば



三本槍の岩峰「三倉岳」

三倉岳（大竹市）は広島県の南西部にある、三つの花崗岩の岩峰、（写真右から）「上ノ岳（朝日岳）」、「中ノ岳（中岳）」、「下ノ岳（夕陽岳）」の「三本槍」の形が特徴的な山だ。昭和46年に広島県立自然公園に指定され、登山道、キャンプ場、駐車場などが整備されている。全国的に有名なクライマーのメッカで、多くのルートが開拓してきた。また、ここでトレーニングを積んだ先輩たちが海外の高峰を目指して行った。休日は、近県のみならず、全国からのクライマー、登山者で賑わう。

（一社）広島県山岳・スポーツクライミング連盟
理事長 豊田 和司

編集後記

スキーは我流で続けてきたため、不格好な滑りになっているという自覚がありました。基礎を見直そうと、木曽福島スキー場にあるスキークリニックに初参加。滑走を撮影し映像を確認しながら受ける指導で、右ターン時に外足を使えていない癖が判明しました。矯正は容易ではありませんが、課題が明確になったことは大きな収穫です。また人生で初めてシニア割引を利用する事となり、50歳以上が対象という制度にありがたさを覚える一方、複雑な思いが残りました。最終日はスキー場がクローズとなりましたが、自然の気まぐれも含め、多くの気づきを得た実りある時間でした。（松本光顕）

登山月報 第682号

定 価 110円（送料別）
予約年間 3,000円（送料共）
(毎月1回 15日発行)

発行日 令和8年1月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 905
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会
電 話 03-5843-1631
F A X 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

山と人、時代をつなぐ『岳人』

2月号
販売中

【特集】装備のメンテナンス

モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて販売中！

毎月15日発売 價格1,100円（税込）

▶年間購読が断然おトクです！

年間購読
通常特典

購読割引

送料無料

限定品プレゼント

さらに
モンベル
クラブ
会員さまには

モンベルポイント
5,000P プレゼント！

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、
次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

年間購読のお申し込みはこちらから! »

<https://www.gakujin.jp/>

全国の
モンベルストア
でも受付中！

お問い合わせ
モンベルポスト

0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

年間購読特典

岳人オリジナル手ぬぐい

岳人の表紙絵を描く
中村みつを氏のイラストを使用！

限定
デザイン

岳人
カード

全国2,300ヵ所以上で
ご優待！

全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまなご優待が受けられるカードです。

14

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals) とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境

関連する主なSDGs	主な取組
12 つくる責任 つかう責任	・再生可能エネルギーの普及支援 ・自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング
13 陸海空に つなぐ気候変動	

安心して暮らせる社会

関連する主なSDGs	主な取組
1 いのちを つなぐ 2 食べる 3 すこやかな 健康と安全 4 いるいの教育を みんなに 5 うみのいのちを 守りよう 6 すこやかさを 全世界に	・健康づくりの支援 ・先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応
7 すこやかなま まに 8 まちがいな 経済成長 9 まちと自然を つなぐくらう 10 いやほの平 安をくらう 11 まちのまちを つくりよう 12 つくる責任 つかう責任 13 陸海空に つなぐ気候 変動 14 かのうをくら う 15 かのうをくら う 16 まちのまちを くらう 17 いのちを つな ぐ	

活力のある経済活動

関連する主なSDGs	主な取組
7 すこやかなま まに 8 まちがいな 経済成長 9 まちと自然を つなぐくらう 10 いやほの平 安をくらう 11 まちのまちを つくりよう 12 つくる責任 つかう責任 13 陸海空に つなぐ気候 変動 14 かのうをくら う 15 かのうをくら う 16 まちのまちを くらう 17 いのちを つな ぐ	・次世代モビリティ社会への対応(自動運転車等) ・災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会[※]をめざします。

※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



日山協山岳共済会のご案内

安全登山は登山者の努め、
山岳保険は義務。

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2024年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
(2025年6月19日)

発生件数	2,946 件 (前年対比 180件減)
遭難者数	3,357 人 (前年対比 221人減)
死者・行方不明者	300 人 (前年対比 35人減)

2025年版
JMSCA 日山協山岳共済会のしおり

WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.jp)

